

株式会社サンリツ 会社説明会

地球をつつむ思いやり
ロジスティクスパートナー サンリツ

2026年10月17日

東証スタンダード
【証券コード：9366】



本日のご説明内容

1. 会社概要
2. 2027年3月期～2029年3月期 中期経営計画
3. 2027年3月期 業績予想
4. サンリツ卓球部の活動
5. Appendix
外部環境

1. 会社概要

1. 会社概要

2. 2027年3月期～2029年3月期 中期経営計画

3. 2027年3月期 業績予想

4. サンリツ卓球部の活動

5. Appendix

外部環境

1-1. 会社概要

社名	株式会社サンリツ
設立	1948年3月（2026年 創業78年）
本社	東京都港区港南2-12-32
資本金	2,523百万円
売上高	20,532百万円(2026年3月期 連結)
従業員数	456名(2026年3月末 連結)
主要拠点	関東を中心に10拠点
連結子会社	国内1社、海外1社（米国）
決算期	3月
上場	東京証券取引所 スタンダード市場【9366】

1-2. 事業概要 セグメント別

賃貸ビル事業



事務所及び共同住宅の賃貸

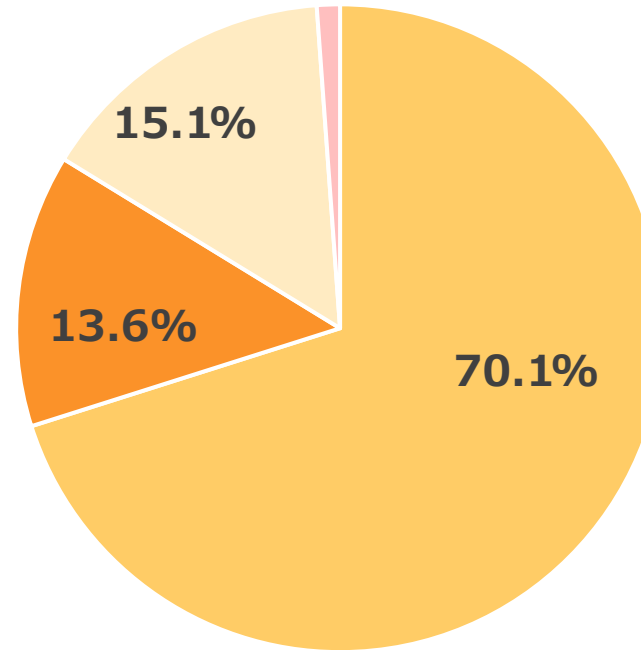
倉庫事業



保管、入出庫及び賃貸
空調や高ルクス照明などの設備を有し各取扱製品に最適な倉庫オペレーションを提供

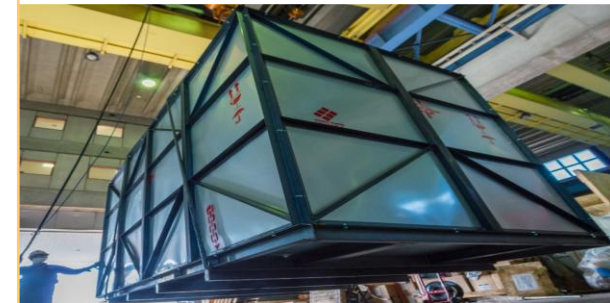
梱包事業を軸とした 売上構成

1.2%



セグメント別 売上割合
2026年3月期

梱包事業



梱包及び木箱製造等
小さな精密機器から超重量貨物までの梱包を多岐にわたり対応

運輸事業



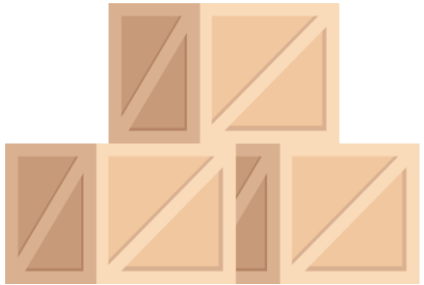
トラック輸送
精密機器、電機通信機器、計測器、医療機器などエレクトロニクス関連の製品を中心に環境に配慮した効率的な配送

1-3. 梱包とは

包装
(広義)

サンリツが行っている
梱包は工業包装

工業包装



輸送時における製品の
保護を目的とした包装

商業包装



小売業などで消費者
への販売のために施す
包装

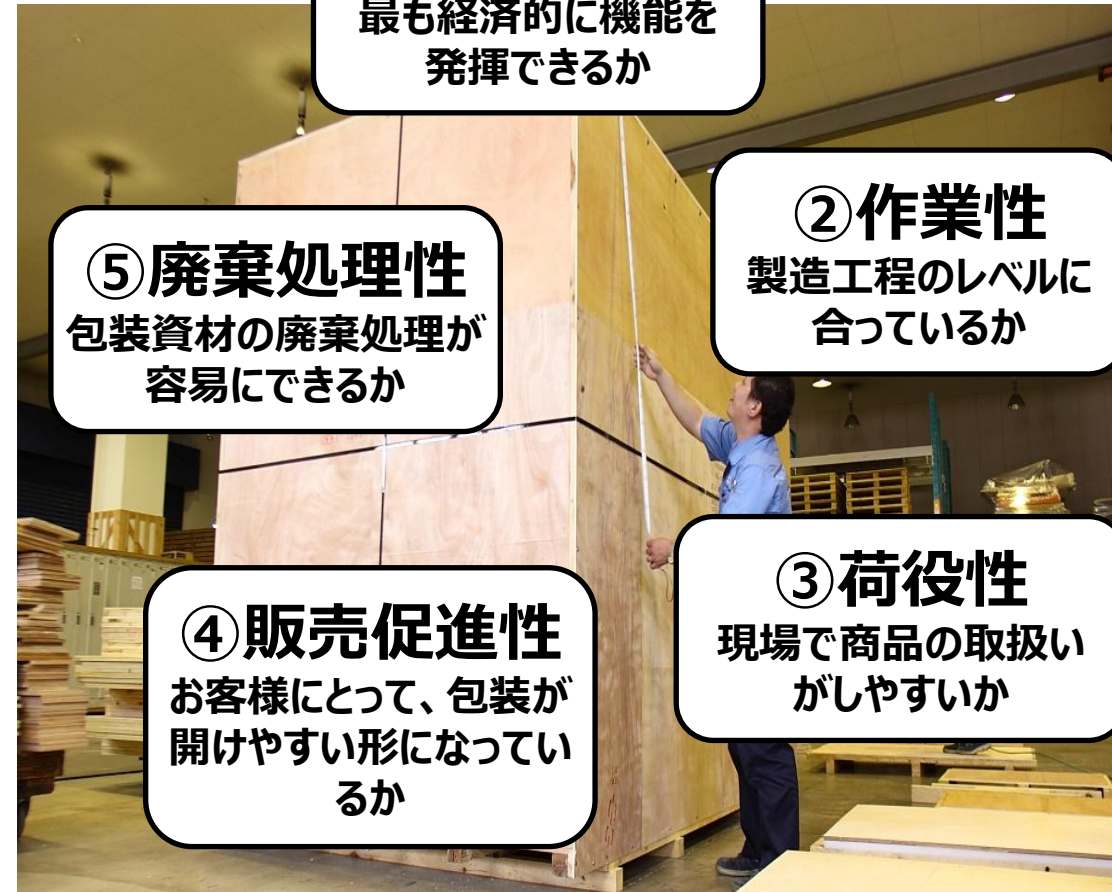
①保護性
最も経済的に機能を
発揮できるか

②作業性
製造工程のレベルに
合っているか

⑤廃棄処理性
包装資材の廃棄処理が
容易にできるか

④販売促進性
お客様にとって、包装が
開けやすい形になってい
るか

③荷役性
現場で商品の取扱い
がしやすいか



1-4. 当社の提供する梱包形態



小型製品	中型製品	大型製品	超大型製品
・通信機器 ・電子部品、製品 など	・各種パーツ類 ・電子製品 ・医療機器 など	・医療機器 ・無線通信機器 ・金型 など	・工作機械 など
【段ボール梱包】  	【強化段ボール梱包】  	【木枠・木箱梱包】  	【鋼材梱包】 

1-5. 梱包作業風景

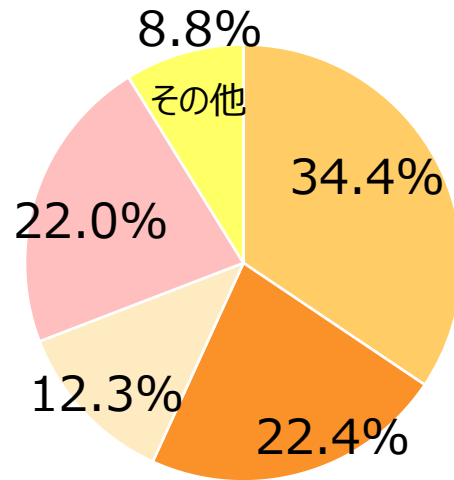


1-6. 事業概要 取扱製品群別

梱包技術を生かせる取扱製品群に注力

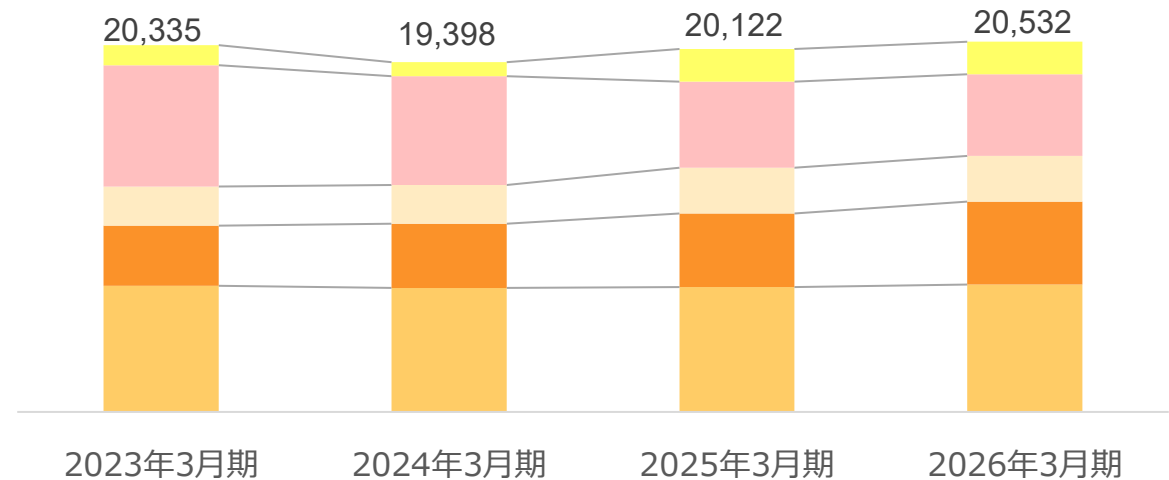
取扱製品群別売上構成比

2026年3月期

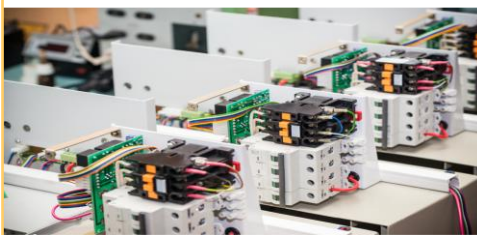


取扱製品群別売上高推移

(百万円)



小型精密機器



計測器、電子部品、各種
パーツ

大型精密機器



無線通信機器、半導体製
造装置等

医療機器



カテーテル、ペースメーカー、
CT、MRI等

工作機械



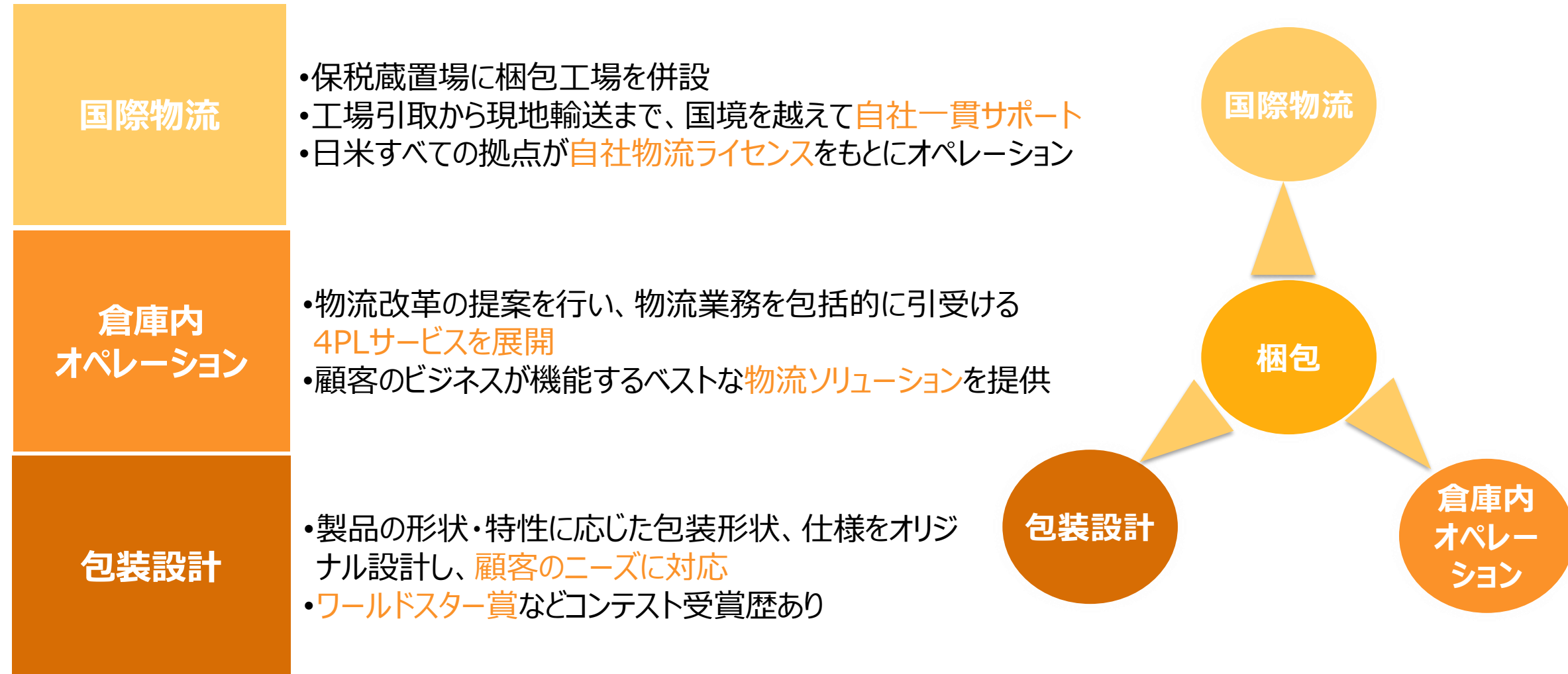
マシニングセンタ、金属加工
機械、NC旋盤等

1-7. 海外拠点



1-8. 事業概要 当社の強み

高い梱包技術を持った**総合物流会社**として事業領域を拡大



1-9. 事業戦略

他の競合他社を凌駕する**高物流品質**で、企業間物流をターゲットとしビジネス展開を行う

① 工作機械の梱包を行う大型設備を保有



- ・日米の拠点において大型設備を保有
- ・自社物流ライセンスで国際物流を展開

② 精密機器・医療機器物流のスペシャリスト



- ・製品の付加価値が高い
- ・扱いがデリケート
- ・一品一様製品

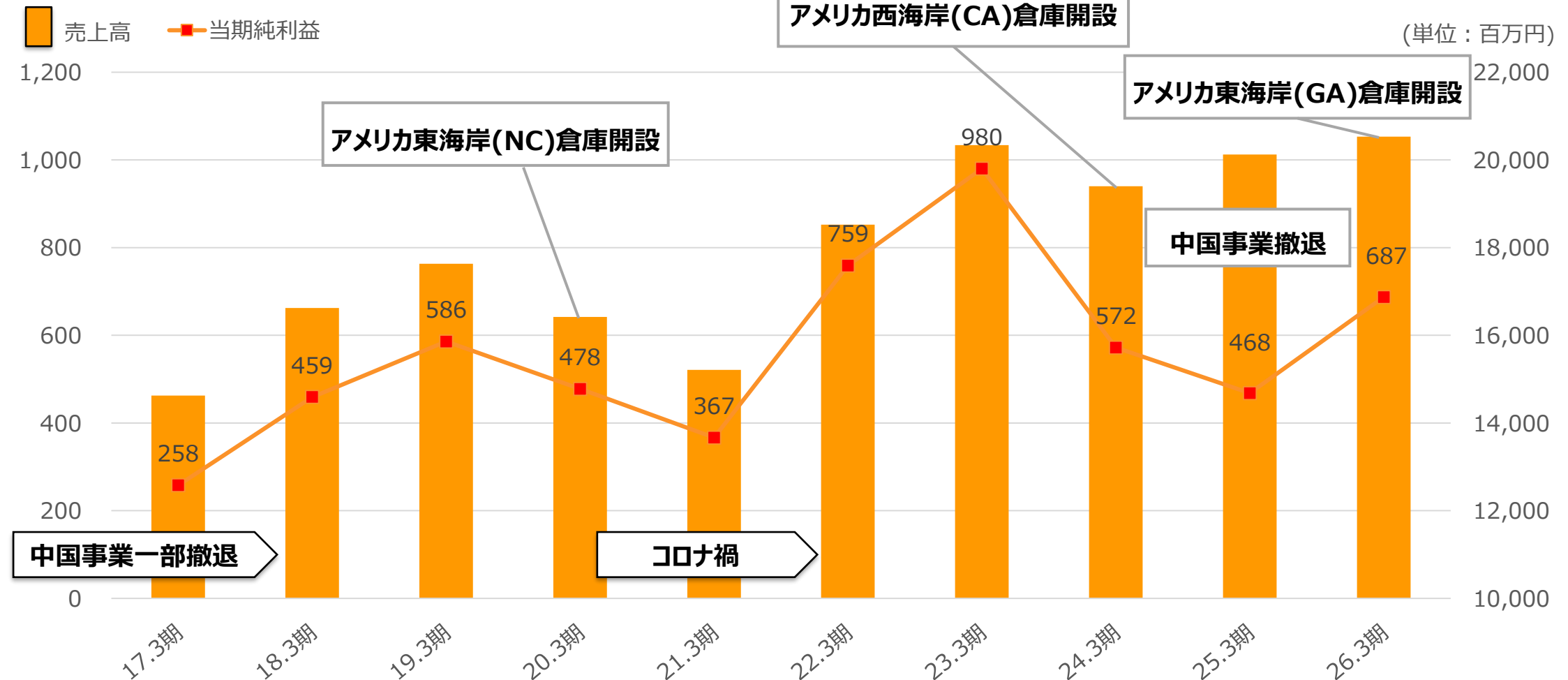
③ 梱包分野において差別化



- ・物を壊れないように守り抜く技術に強み

1-10. 過去10年間の業績推移

2026.3月期 売上高 20,532百万円



※ 当期純利益：親会社株主に帰属する当期純利益及び純損失を示します。以降のページ同様です。

2. 2027年3月期～2029年3月期 中期経営計画

1. 会社概要
2. 2027年3月期～2029年3月期 中期経営計画
3. 2027年3月期 業績予想
4. サンリツ卓球部の活動
5. Appendix
外部環境

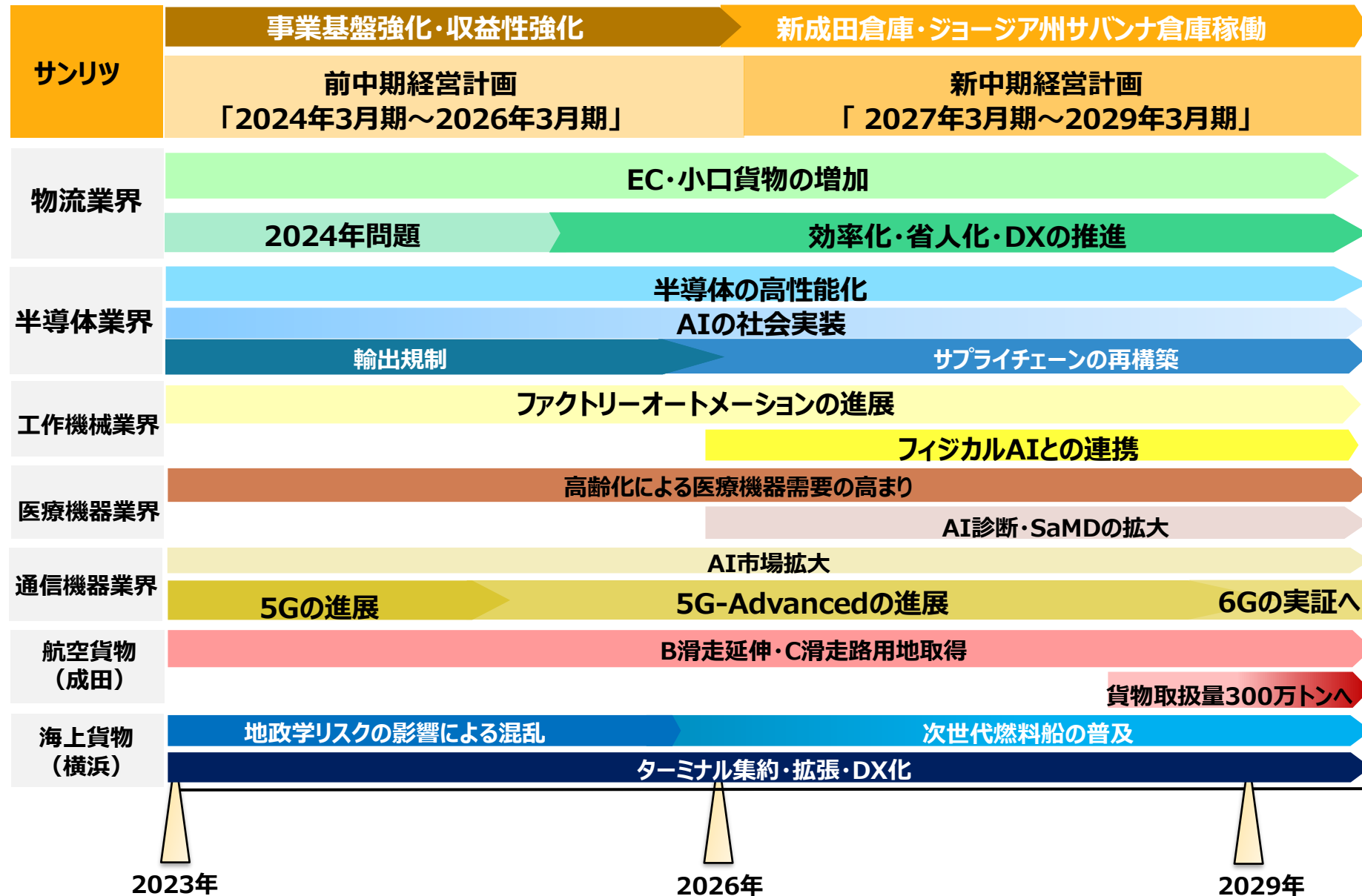
2-1. ビジョン（中長期的に目指す姿）

オペレーションから ソリューションへ

『ソリューション』

お客様との対話を繰り返すことで、今まで引き出せなかったニーズだけでなく、お客様さえ気づいていない真のニーズを引き出し、解決する「ソリューション」の力を身に付けていく。

2-2. 新中期経営計画（事業トレンド）



2-3. 新中期経営計画（事業環境）【2027年3月期～2029年3月期】

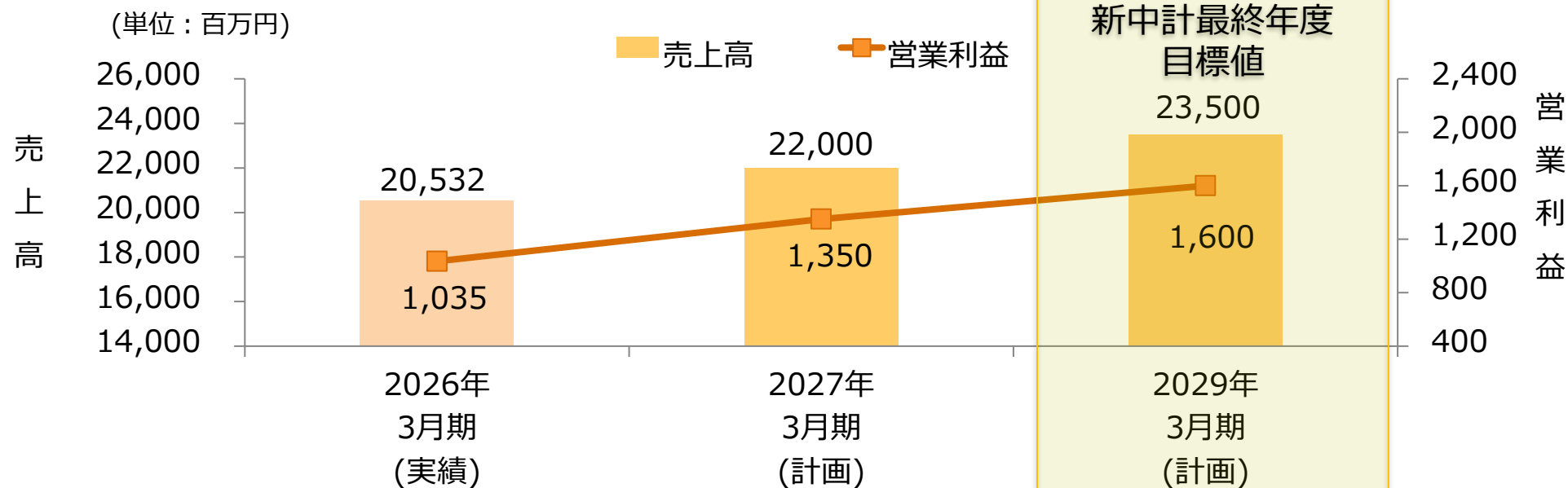
事業環境変化を貨物取扱量増加や高付加価値事業に転換できるかが重要に

外部環境	当社グループへの影響(機会・リスク)
地政学リスク ・米中摩擦、中東情勢の不安定化 ・世界的エネルギー価格や輸送コストの変動	▶ 顧客サプライチェーン見直しによる解約、失注リスク増加 ・半導体、先端技術の輸出規制強化による取扱量減少 ・価格上昇による粗利益率低下
為替リスク ・円安による海外利益増 ・輸入資材の高コスト化	▶ 海外輸出取扱量増加 ・資材高騰による粗利益率低下
環境・政策リスク ・労働人口減少継続 ・労働規制強化による労務コスト上昇 ・脱炭素政策強化	▶ 人材採用競争の激化による人材不足 ・賃上げによる利益圧迫 ・グリーン物流(モーダルシフト、リサイクル可能梱包) 案件増加

2-4. 新中期経営計画の概要①（経営目標）

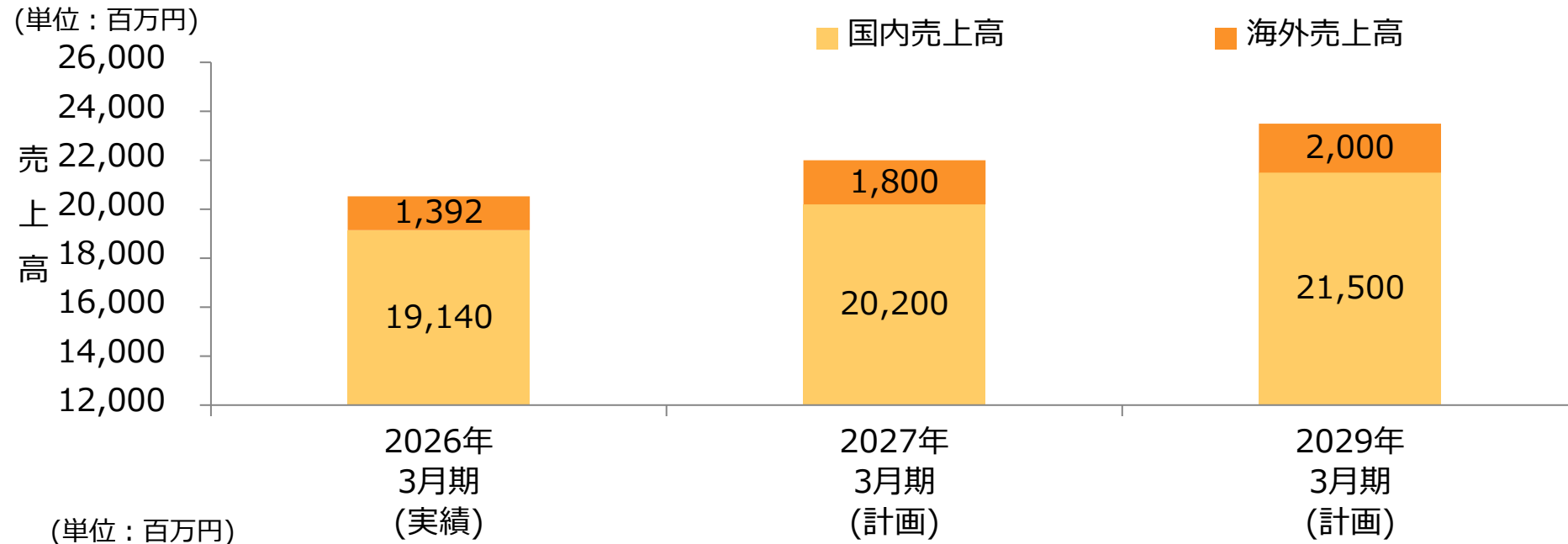
◆指標：2029年3月期 営業利益率6.8% ROE6.6%

2029.3 売上高	23,500 百万円	2029.3 営業 利益	1,600 百万円	2029.3 営業 利益率	6.8%
伸び率	14.5%	伸び率	54.5%	伸び率	1.8pts
2026.3 売上高	20,532百万円	2026.3 営業 利益	1,035百万円	2026.3 営業 利益率	5.0%



2-5. 新中期経営計画の概要②（国内・米国）

◆指標：2029年3月期 営業利益率6.8% ROE6.6%

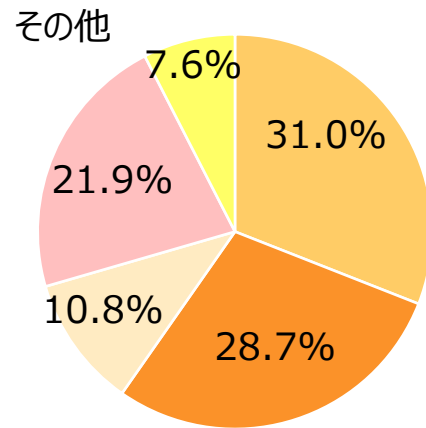


連 結	2026年3月期 (実績)	2027年3月期 (計画)	2029年3月期 (計画)
売 上 高	20,532	22,000	23,500
国 内	19,140	20,200	21,500
米 国	1,392	1,800	2,000
営 業 利 益	1,035	1,350	1,600
営 業 利 益 率	5.0%	6.1%	6.8%

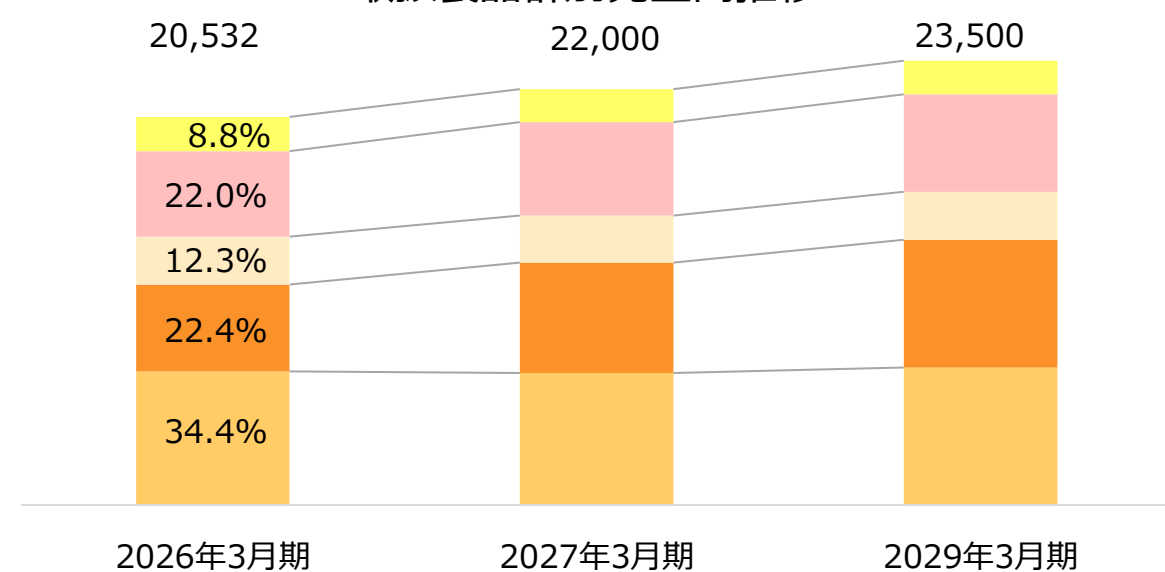
2-6. 新中期経営計画の概要③（取扱製品群別）

大型精密機器：国内物流拠点の拡充による半導体製造装置の需要取り込み
工作機械：米国での荷動き回復

取扱製品群別売上構成比 2029年3月期



取扱製品群別売上高推移 (百万円)



小型精密機器

計測器、電子部品、各種
パーツ



大型精密機器

無線通信機器、半導体製
造装置等



医療機器

カテーテル、ペースメーカー、
CT、MRI等



工作機械

マシニングセンタ、金属加工
機械、NC旋盤等

2-7. 新中期経営計画の主な施策

1. 事業/重点施策	①収益力向上	国内物流拠点の拡充 既存アセットの最大活用
	②付加価値の最大化	米国における倉庫起点の高付加価値サービス展開 国内における付帯サービスの価格最適化
	③業域の拡大	既存事業領域の深化
2. 基盤戦略	サステナビリティの推進	
3. 財務・資本	キャッシュアロケーション	株主還元

2-8. 事業/重点施策：収益力向上

◆国内物流拠点の拡充

小型精密機器

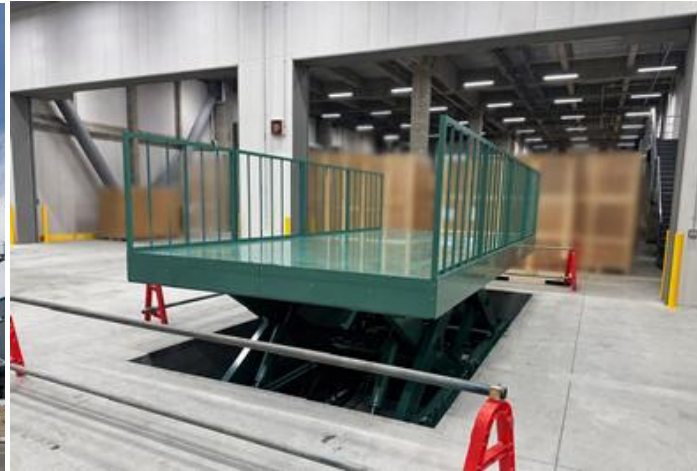
大型精密機器

成田新倉庫開設（2026年7月）／貨物取扱量増加を目指す

- ▶ 成田空港B滑走路の延伸を控えるなか、成田地区において半導体製造装置や電子部品などの各種精密機器群をターゲットに、輸出梱包を中心とした物流サービスを拡充
- ▶ 保冷設備、大型X線検査装置を完備

テーブルリフター装備

冷蔵・冷凍倉庫



◆既存アセットの最大活用

工作機械

- ▶ 横浜港エリアで最大級をほこる大型設備稼働率向上
- ▶ 適正価格転嫁
- ▶ 環境配慮型梱包（Steel梱包）の需要喚起



28tフォークリフト



40トンクレーン
2基

2-9. 事業/重点施策：付加価値の最大化

◆米国における倉庫起点の高付加価値サービス展開

小型精密機器

大型精密機器

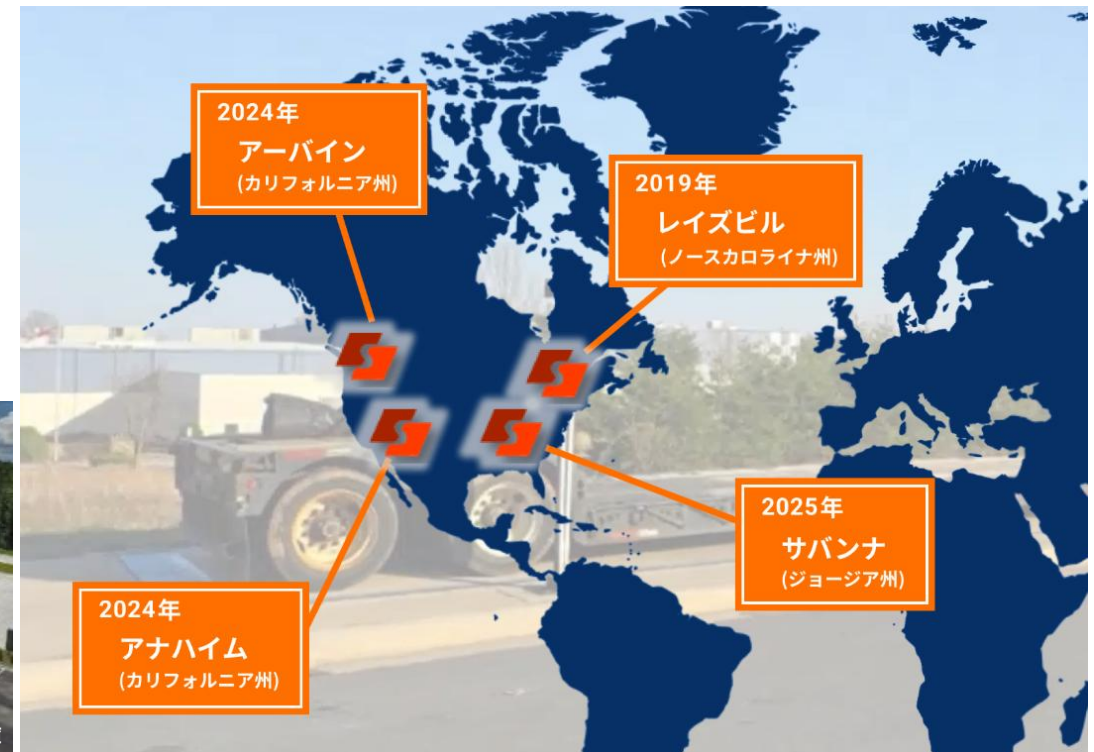
工作機械

米国内ロジスティクスの拡大

- ▶ 工作機械の取り扱いを更に強化するとともに、大型/小型精密機器関連の取り扱いを拡大

倉庫起点の高付加価値サービス展開

- ▶ 日系製造業サポートサービス
テクニカルセンター開設
ショールーム開設

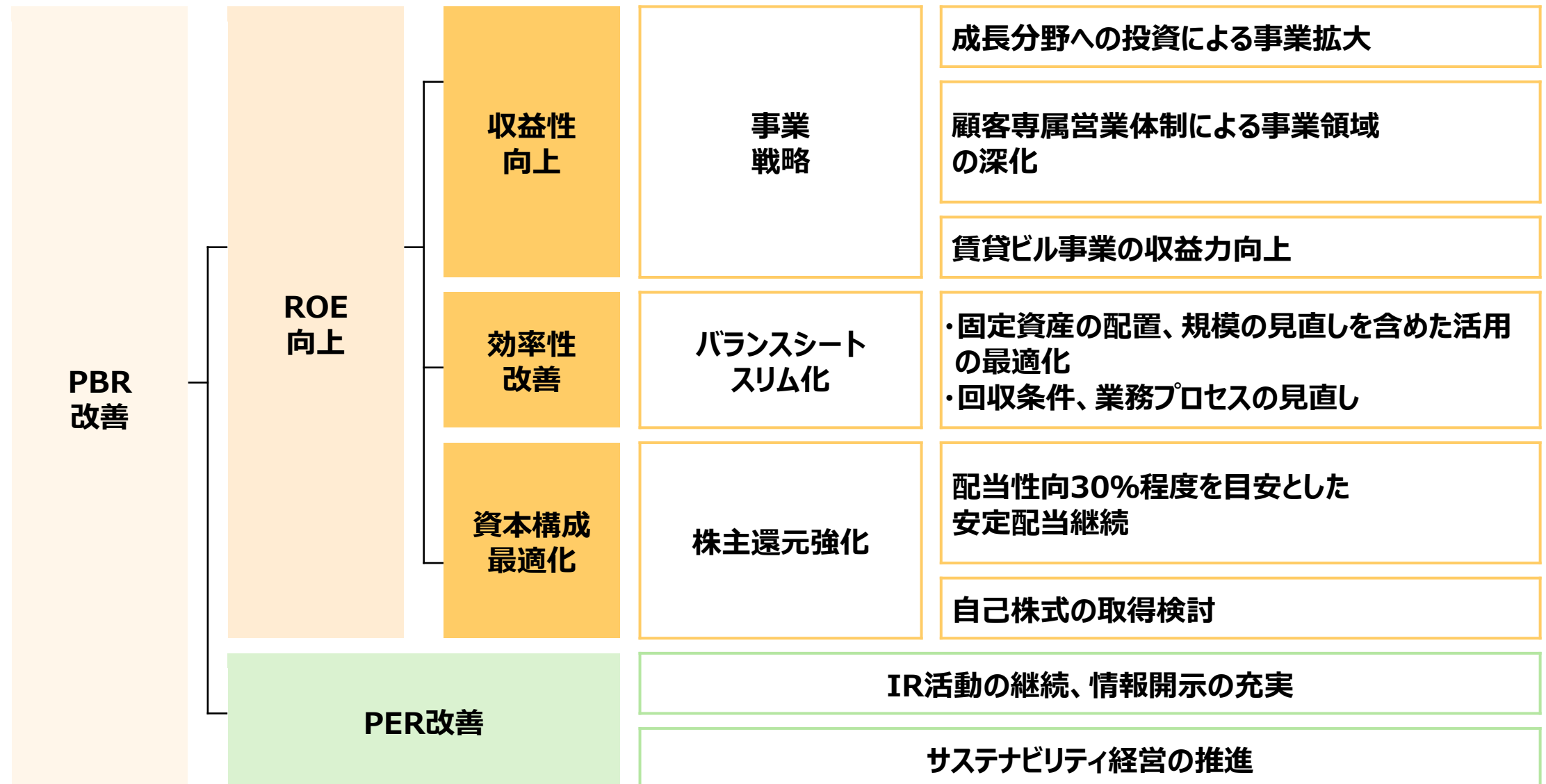


2-10. 基盤戦略：サステナビリティの推進

「美しく魅力のある会社の実現を目指す」との企業理念を踏まえ、誠実な事業活動を通じ、企業及び社会の持続的成長に貢献

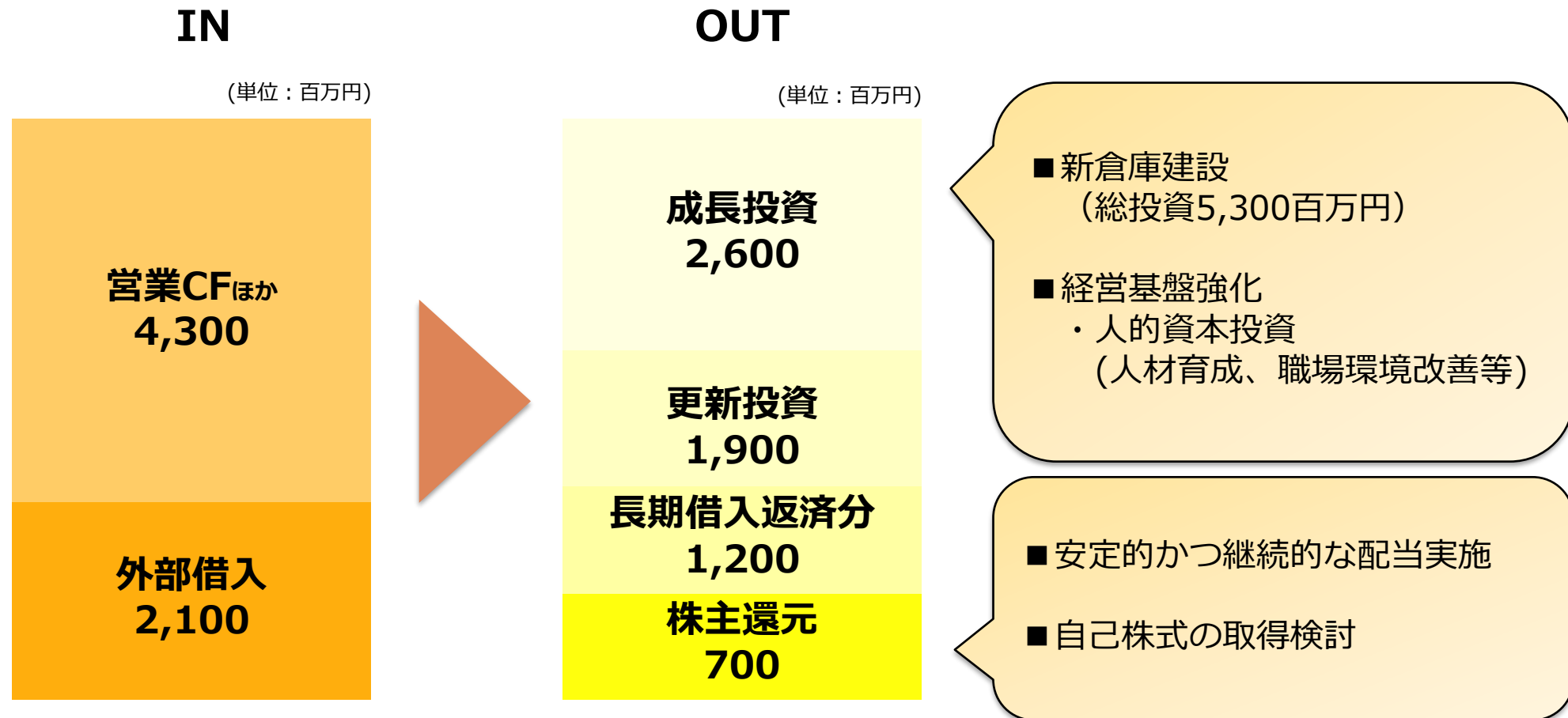
	目指す姿	主な取組み
環境への配慮	コスト削減と環境負荷低減を叶える 物流サービスの提供	環境配慮型梱包及び輸送の提案 (積載効率、重量削減などによるCO2排出削減など)
安全・安心で働きがいのある職場	従業員が心身共に健康で、生き活きと 働く職場の実現	・職場環境改善（倉庫内の寒暑など） ・無事故、安全対策 ・業務生産性向上（IT化、改善活動） ・就業環境の質向上
ダイバーシティ	柔軟な働き方、多様な価値観が受け入れ られる職場の実現	・人事制度刷新 ・多様な価値観を有する人材の育成 ・女性活躍の推進 ・育児・介護との両立支援環境整備
ガバナンス	経営執行の監督と牽制を通じた持続的な 成長の実現	・取締役会の実効性向上 ・企業価値向上に向けたリスク、リターンの最適化管理の高度化

2-11. 財務・資本：企業価値向上に向けた取り組み



2-12. 財務・資本：キャッシュフロー

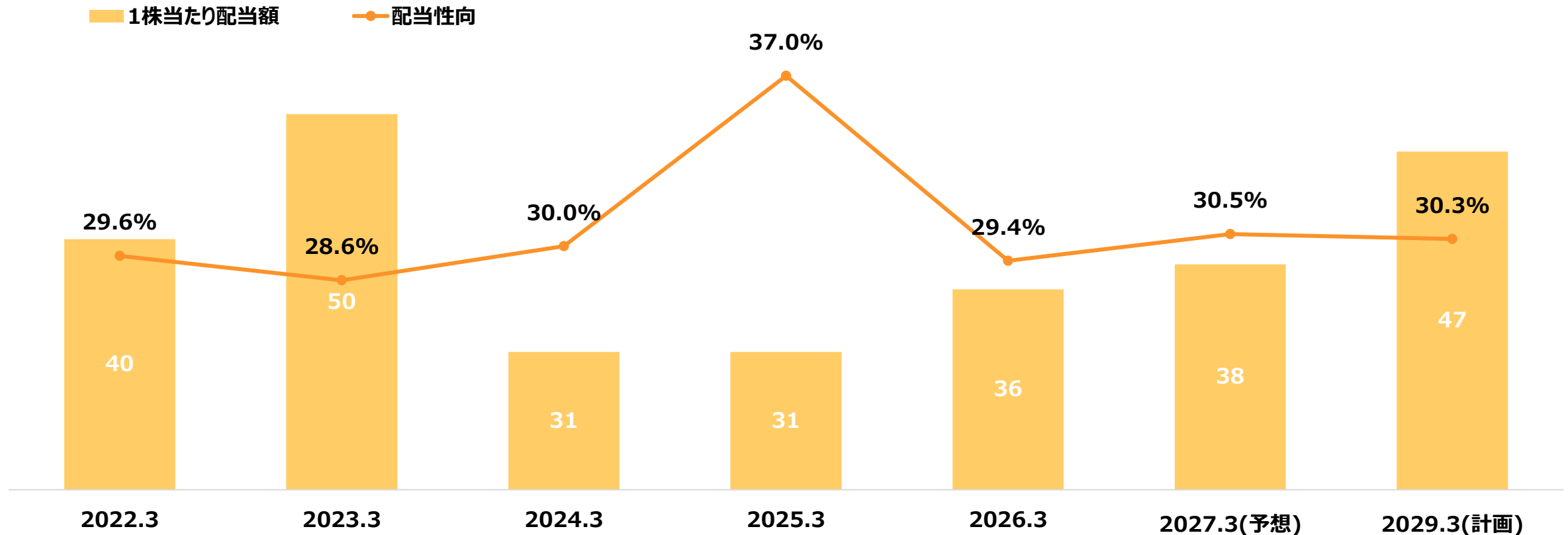
- ・外部借入を活用し、将来を見据えた人的資本を中心とした成長投資を推進
- ・財務健全性を維持しつつ、株価水準などを勘案し、安定的かつ継続的な株主還元



2-13. 財務・資本：株主還元

— 配当政策 —

- ・収益に応じた株主への利益還元を経営上の最重要課題の一つとして認識
- ・財務体質の強化と今後の国内外における事業展開等を総合的に勘案しつつ、積極的に配当を実施することを基本方針とする
- ・連結配当性向を30%程度とすることを基本として検討



3. 2027年3月期 業績予想

1. 会社概要
2. 2027年3月期～2029年3月期 中期経営計画
3. 2027年3月期 業績予想
4. サンリツ卓球部の活動
5. Appendix
外部環境

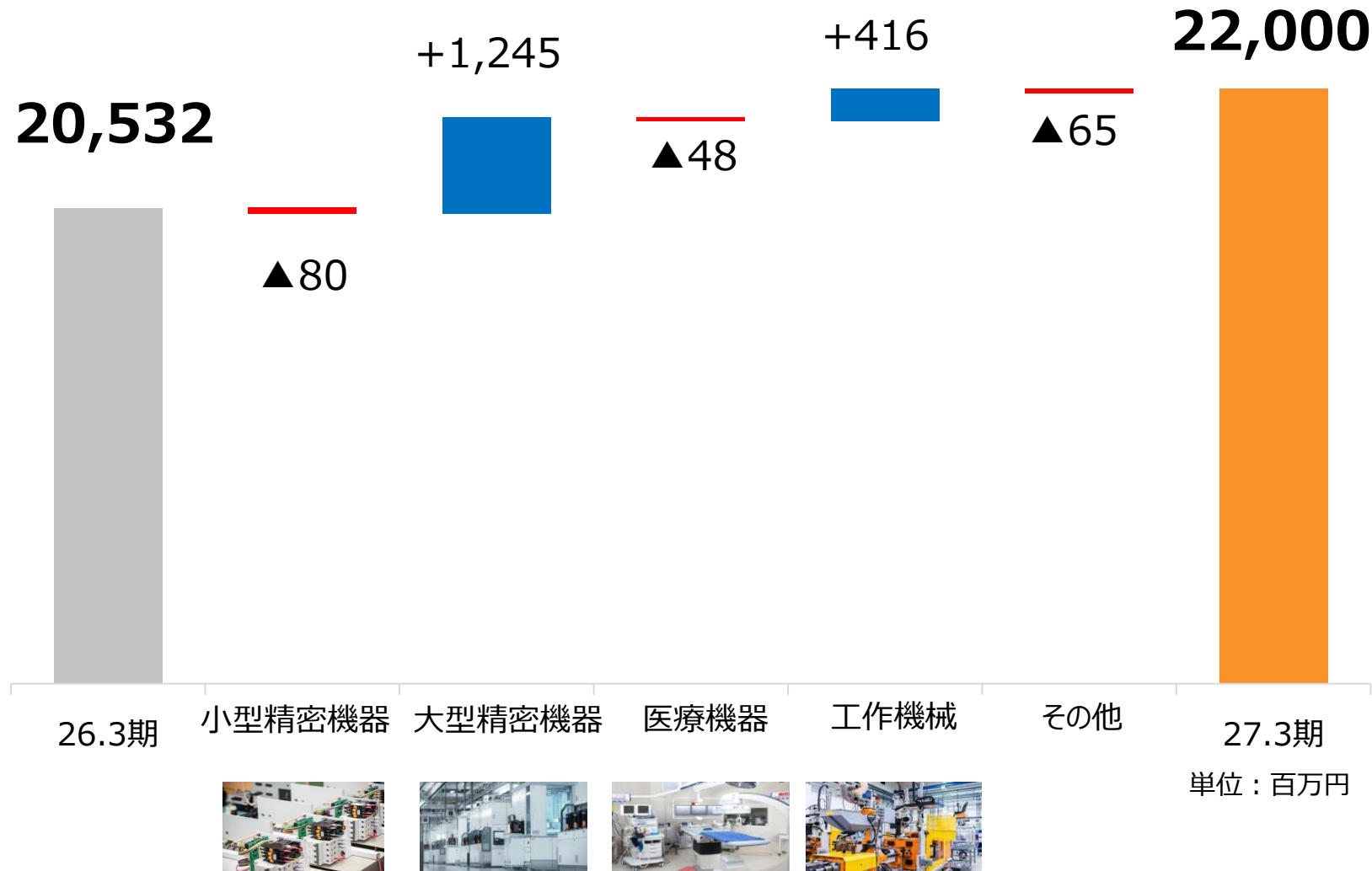
3-1. 連結業績予想

成田新倉庫稼働及び大型精密機器の取扱い増加による増収を見込む

単位：百万円	2026年3月期（実績）	2027年3月期（予想）	増減	増減率
売上高	20,532	22,000	+1,468	+7.1%
売上原価	16,167	17,060	+893	+5.5%
（売上原価率）	78.7%	77.5%	▲1.2Pt	-
販売管理費	3,330	3,590	+260	+7.8%
（販売管理費比率）	16.2%	16.3%	+0.1Pt	-
営業利益	1,035	1,350	+315	+30.4%
（営業利益率）	5.0%	6.1%	+1.1pt	-
経常利益	987	1,050	+63	+6.4%
当期純利益	687	700	+13	+1.9%
（当期純利益率）	3.4%	3.2%	▲0.2pt	-
（参考）設備投資	4,528	2,584		
（参考）減価償却費	883	1,017		

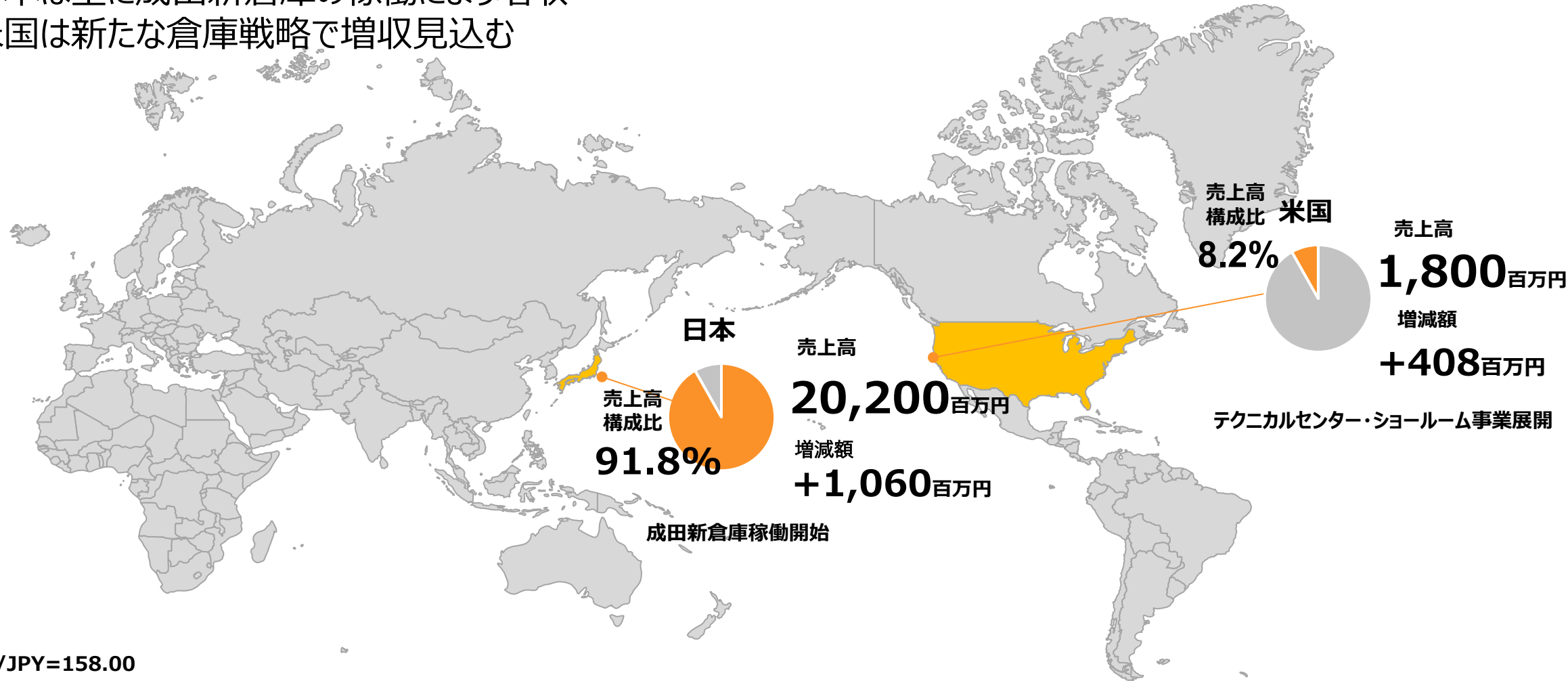
3-2. 取扱製品群別売上予想

- ・主に成田新倉庫の稼働により、大型精密機器の取扱いの増加を見込む
- ・米国では工作機械の取扱い復調を見込む



3-3. 地域別業績予想

- ・日本は主に成田新倉庫の稼働により増収
- ・米国は新たな倉庫戦略で増収見込む



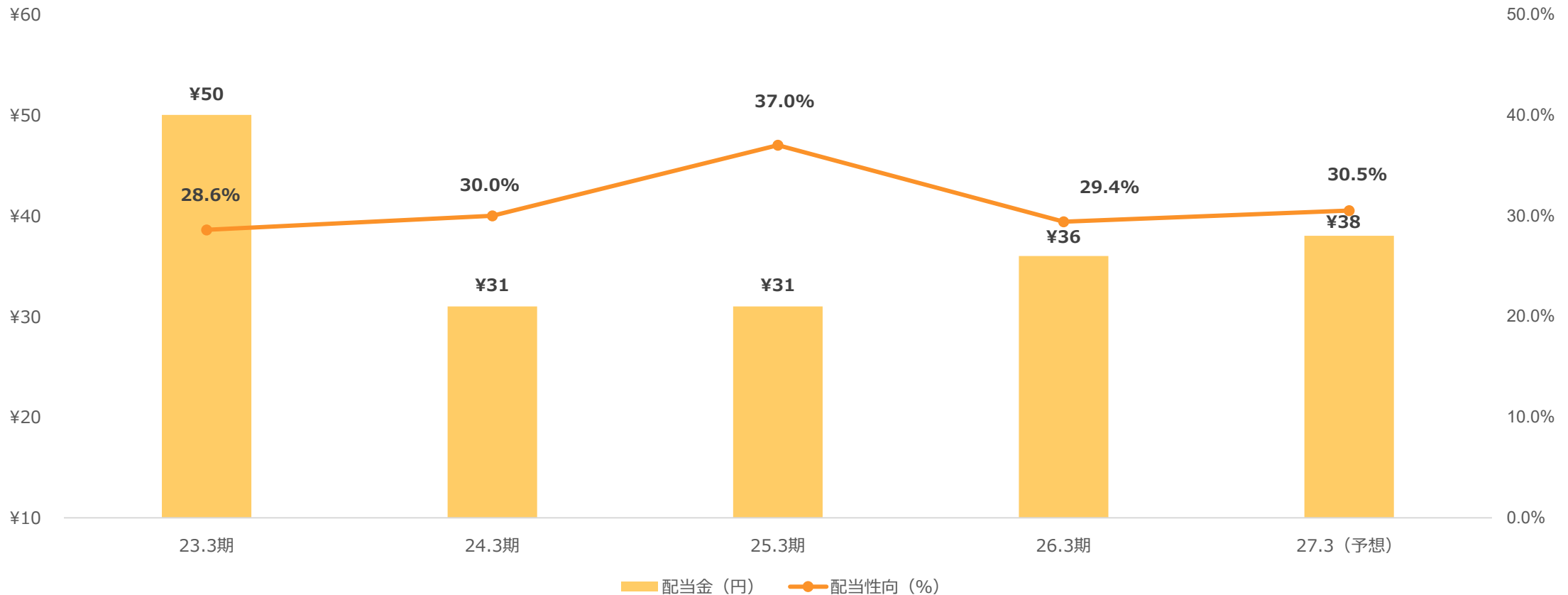
3-4. 配当性向

店頭公開以降38期連続配当

株主還元方針：連結配当性向30%を目途に検討

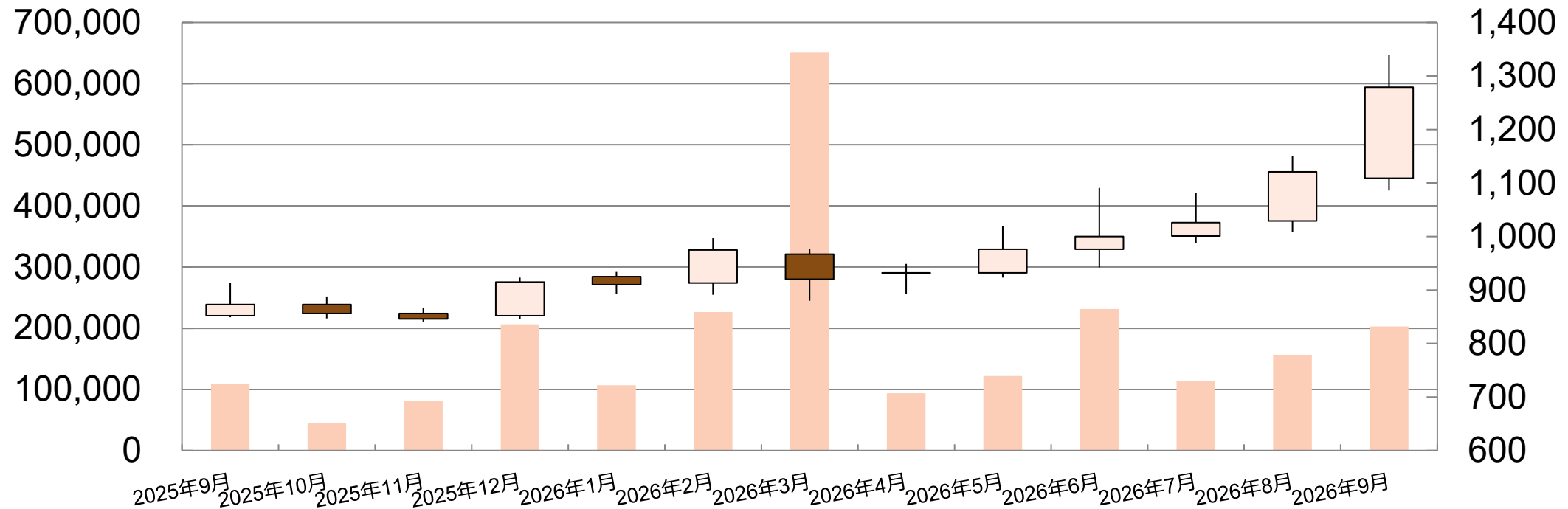
2027.3期：配当性向30%程度を維持

2026.3期：1株当たり**36円**を配当



3-5. 株価チャート

出来高/株価の推移(2026年9月30日時点)



◆ 配当利回り(会社予想) 3.14%

※Yahoo!ファイナンス 配当利回り(会社予想)10月7日時点

4. サンリツ卓球部の活動

1. 会社概要
2. 2027年3月期～2029年3月期 中期経営計画
3. 2027年3月期 業績予想
4. サンリツ卓球部の活動
5. Appendix
外部環境

4-1. サンリツ卓球部の活動

◆ 概要

- ・卓球部を1979年に創設
- ・日本卓球リーグ女子1部に所属

◆ 直近の主な戦績

- ・デンソー 前期日本卓球リーグ福島大会 第7位
- ・第76回全日本実業団卓球選手権大会 第4位

◆ 卓球を通じた交流

- ・サンリツ京浜事業所内にて、第27回卓球教室開催



一般社団法人日本卓球リーグ実業団連盟

山崎・三村ペア



卓球教室の様子



※ 当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づき記述したものでありますが、この記述は、将来の業績を保証するものではなく、経営環境の変化等により異なる可能性があることをご留意ください。

問い合わせ先：企画部 03-3471-0463

5. Appendix 外部環境

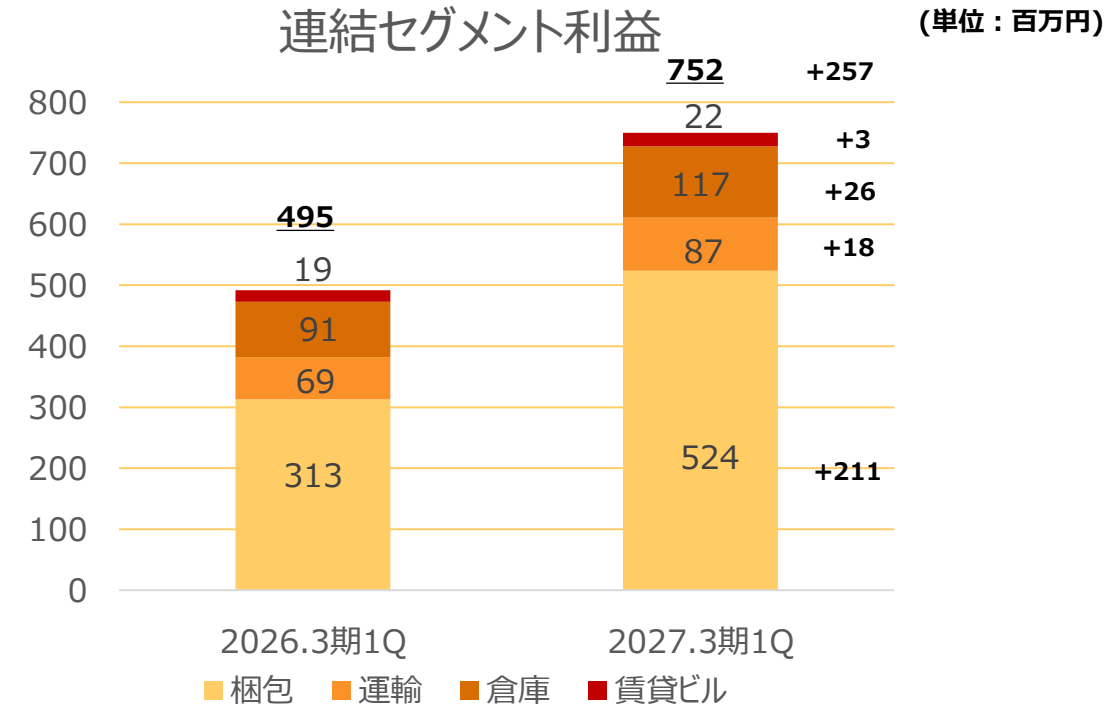
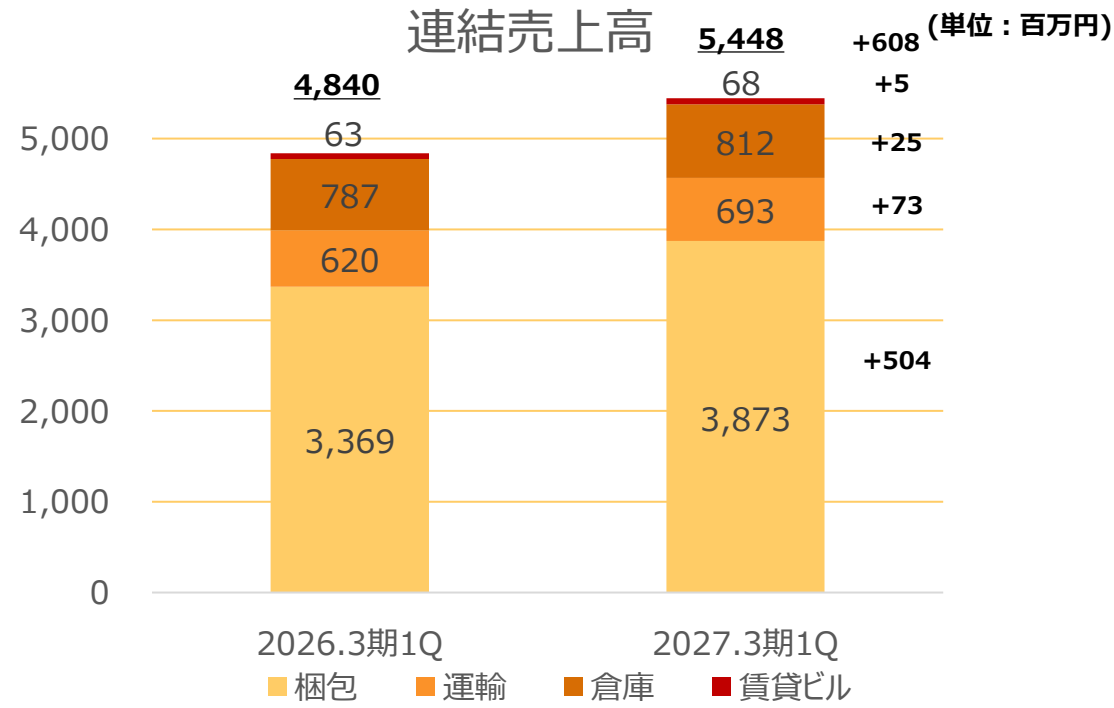
1. 会社概要
2. 2027年3月期～2029年3月期 中期経営計画
3. 2027年3月期 業績予想
4. 卓球部の活動
5. Appendix
外部環境

【参考】2027年3月期 第1四半期決算概要

売上高 & 営業利益：主にAI関連需要の拡大を背景に、半導体製造装置の取扱いが好調に推移したことにより、売上高、営業利益ともに増加

単位：百万円	2026年3月期1Q	2027年3月期1Q	前年比増減	前年比増減率
売上高	4,840	5,448	+608	+12.6%
売上原価	3,908	4,223	+315	+8.1%
（売上原価率）	80.7%	77.5%	▲3.2pt	-
販売・一般管理費	832	889	+57	+6.9%
（販売・一般管理費比率）	17.2%	16.3%	▲0.9pt	-
営業利益	99	334	+235	+237.4%
（営業利益率）	2.0%	6.1%	+4.1pt	-
経常利益	57	311	+254	+445.6%
当期純利益※	28	208	+180	+642.9%
（当期純利益率）	0.6%	3.8%	+3.2pt	-

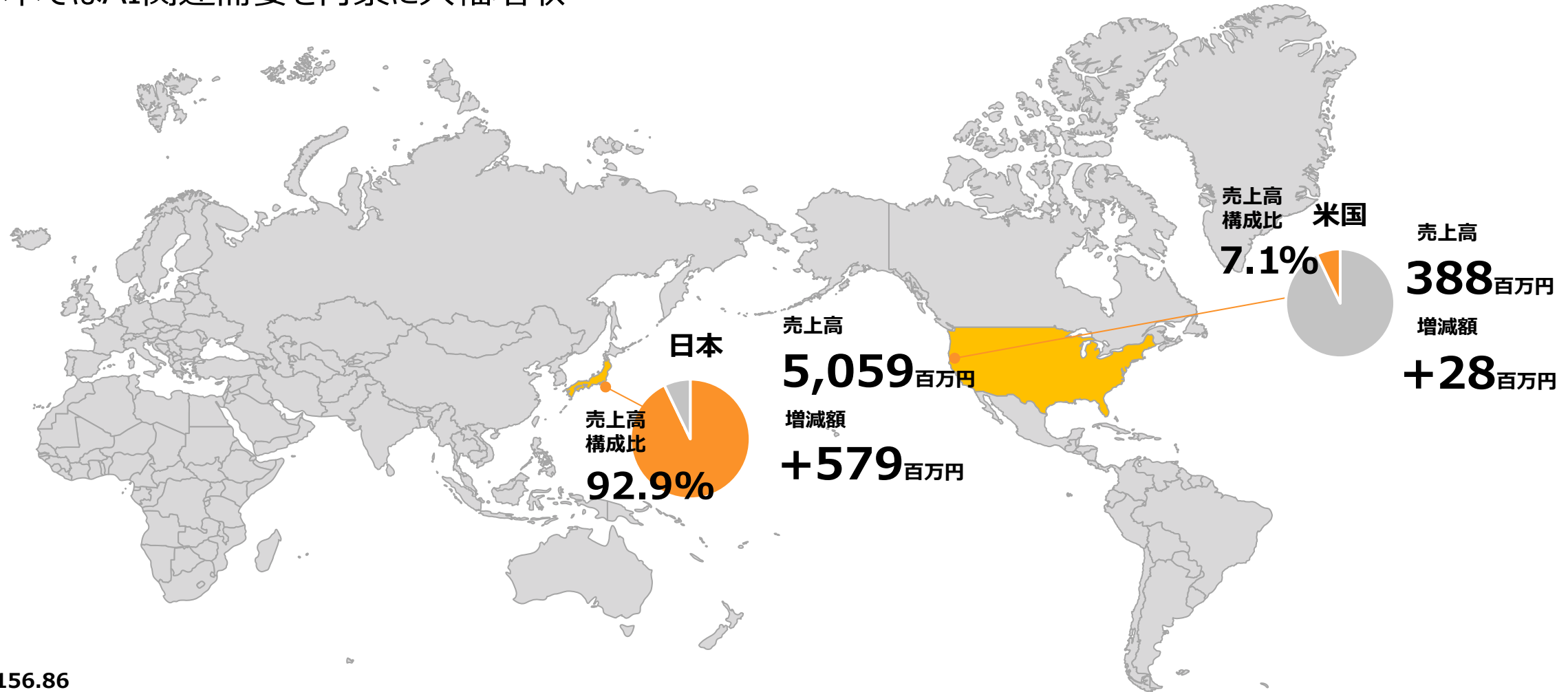
【参考】2027年3月期 第1四半期セグメント別実績



- 梱包事業**：主にAI関連需要の拡大を背景に、半導体製造装置の取扱いが好調に推移したことにより、増収増益
- 運輸事業**：小型精密機器及び工作機械の取扱いが増加したことにより、増収増益
- 倉庫事業**：新たに外部賃貸倉庫を契約し、保管が増加したことにより、増収増益
- 賃貸ビル**：一部テナントの中途解約に伴う一時収益を計上したことにより、増収増益

【参考】2027年3月期 第1四半期地域別売上高

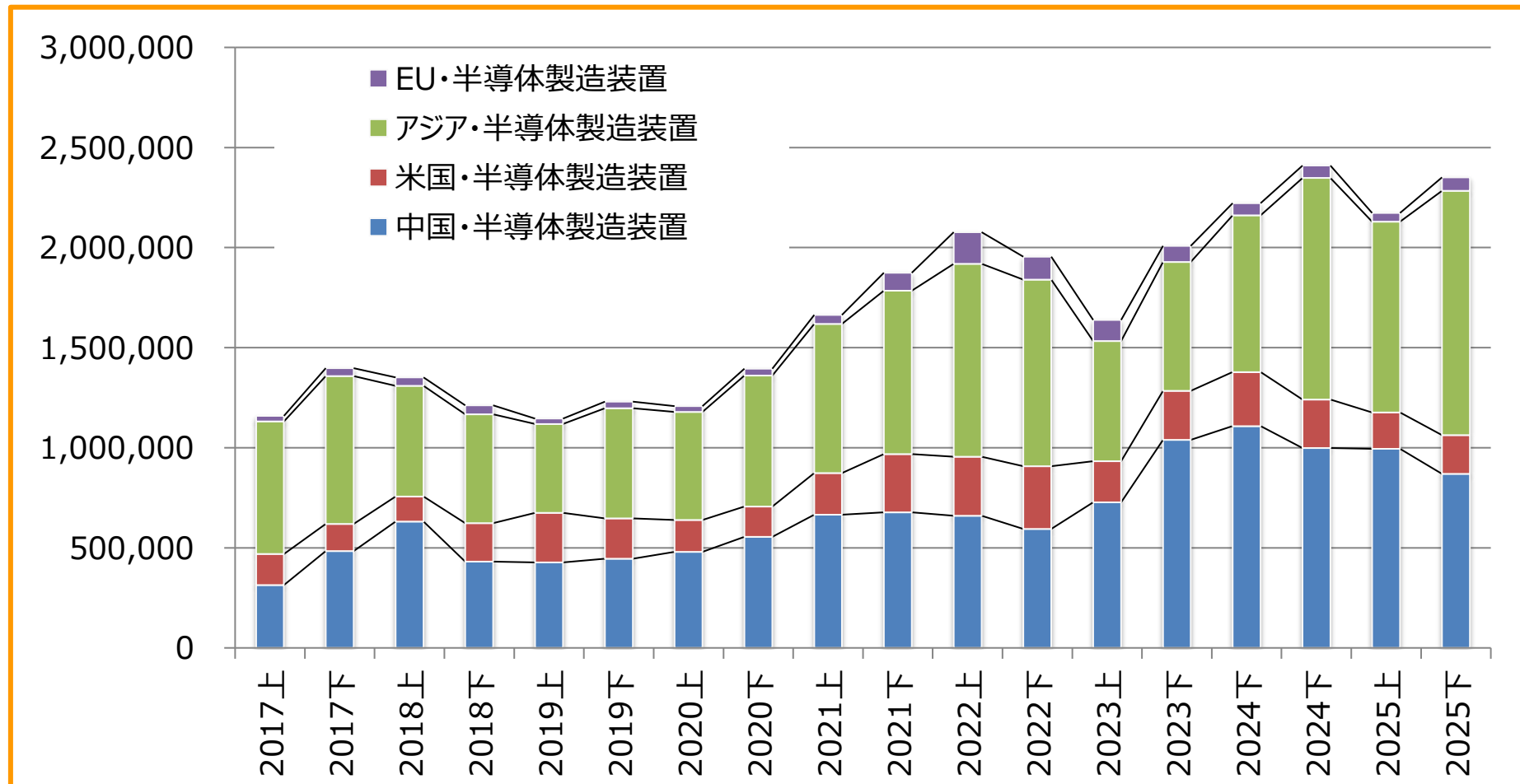
- ・日本ではAI関連需要を背景に大幅増収



品目別輸出金額 年別推移 (半導体製造装置)

※半導体等製造装置…半導体ボール又は半導体ウエハー製造用の機器
半導体デバイス又は集積回路製造用の機器

(単位：百万円)

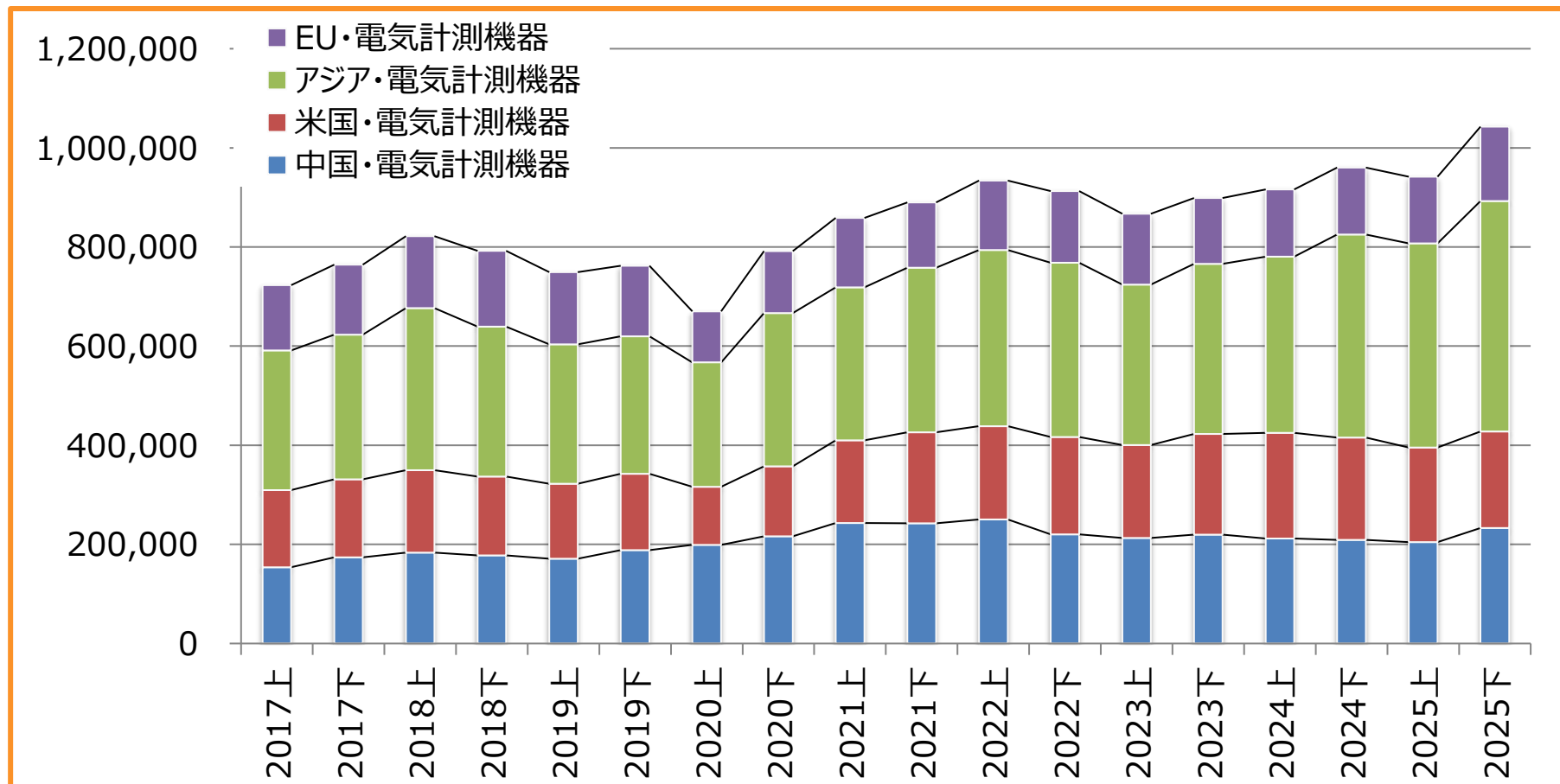


・半導体製造装置は2023年上期で底打ち後上昇傾向。

品目別輸出金額 年別推移 (電気計測機器)

※電気計測機器…マイクロメーター、電気用計器など

(単位：百万円)

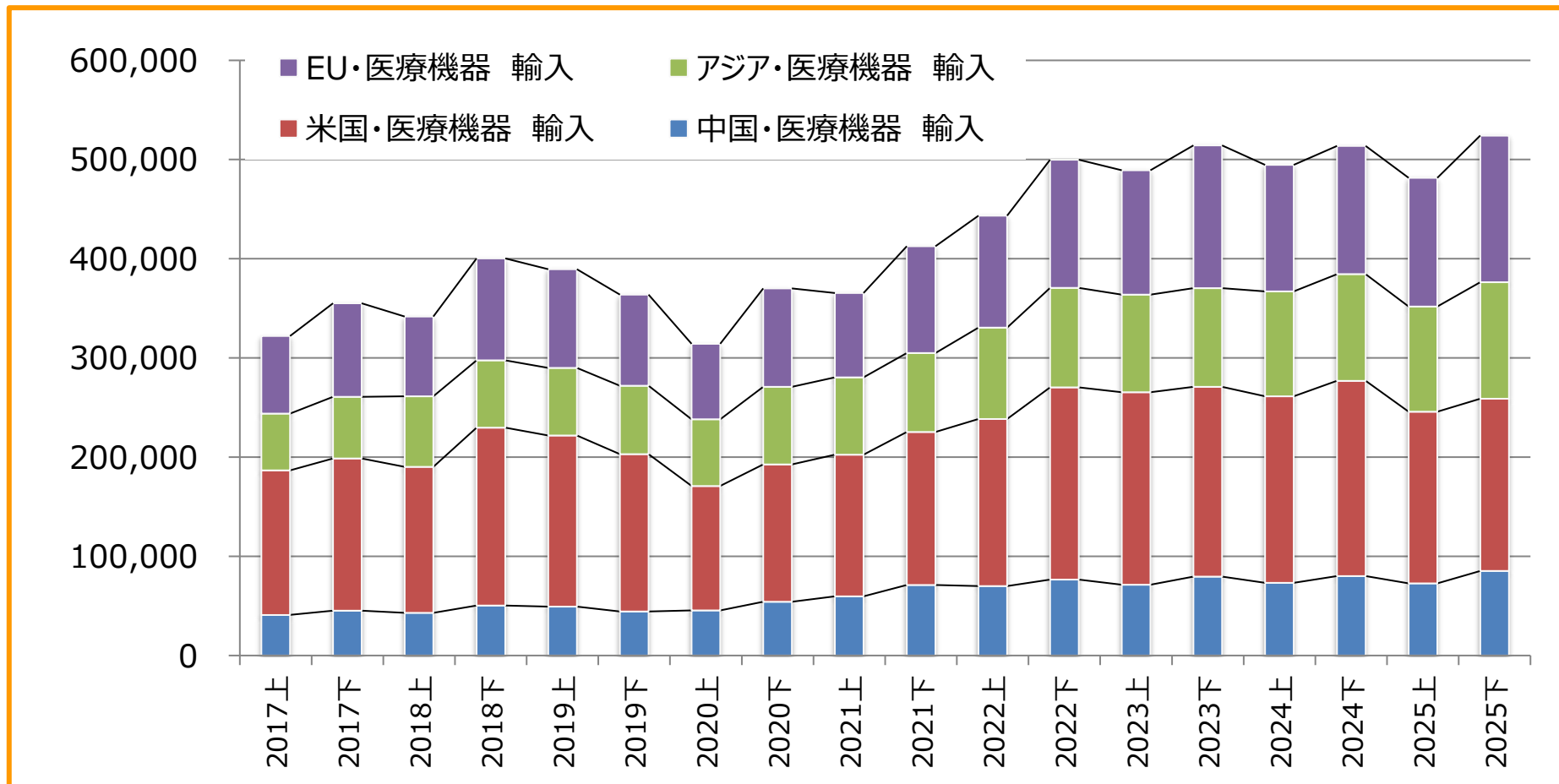


・電気計測機器は2018年上期より減少傾向にあったが、2020年上期には底打ち、安定的な推移を見せている。

品目別輸入金額 年別推移 (医療機器)

※医療機器…医療用または獣医用機器、診断用電気機器、エックス線などを使用する機器など

(単位：百万円)

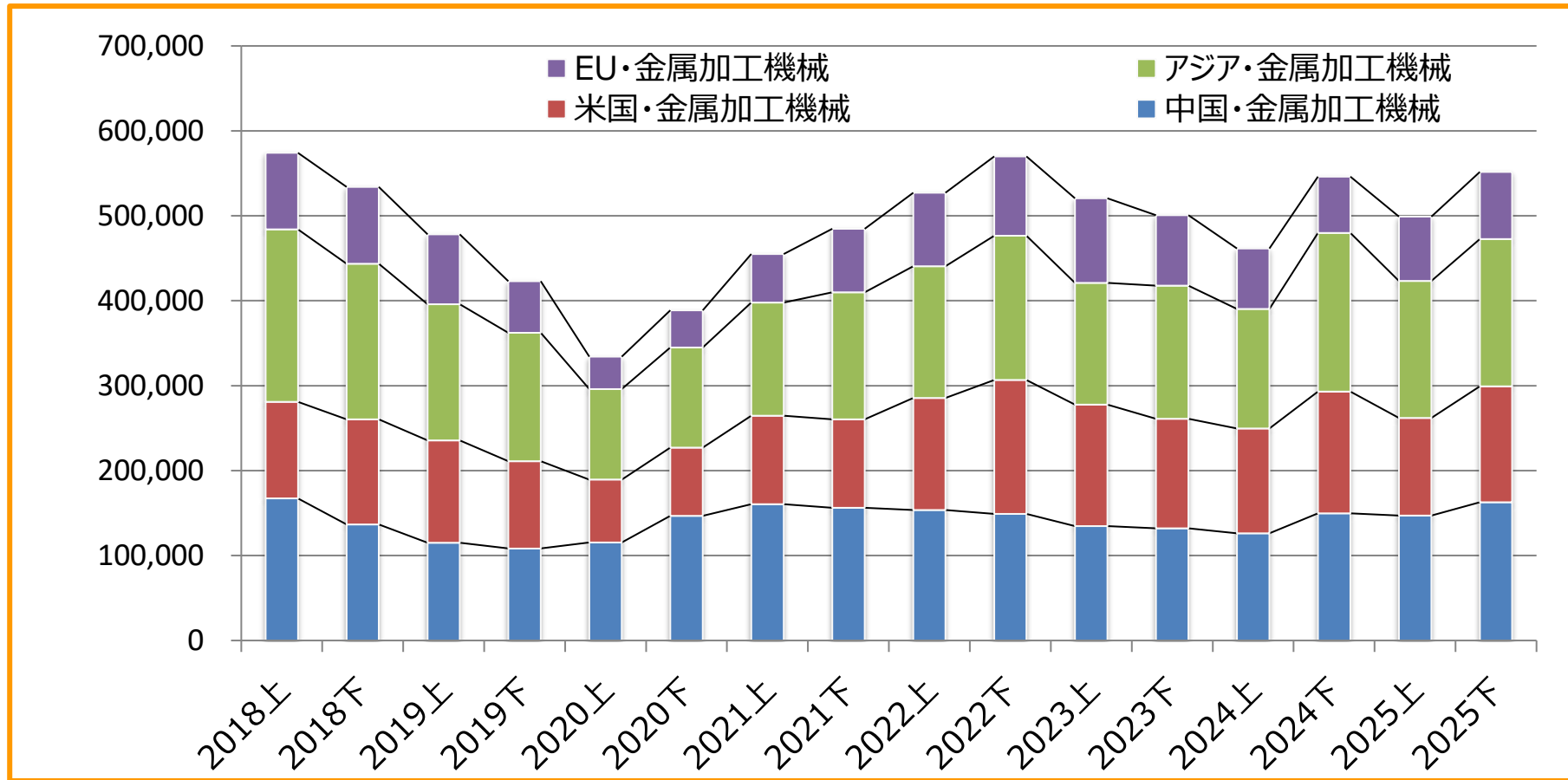


・ 2020年下期より回復に転じ、おおむね横ばい。

品目別輸出金額 年別推移 (金属加工機械)

※金属加工機械…旋盤、研削盤、金属加工用のマシニングセンターなどその他の加工機械

(単位：百万円)

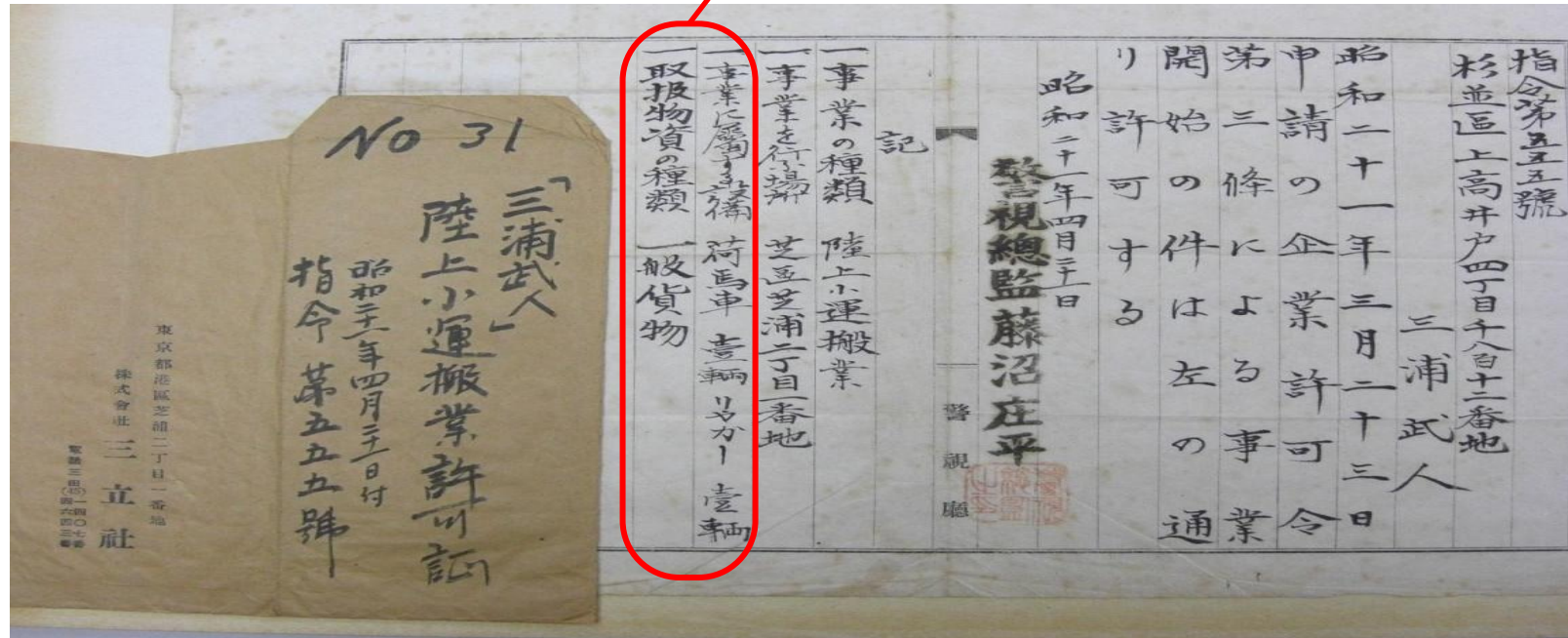


・金属加工機械はシクリカルな業界動向の中で、2024年上期で底打ちか。

【参考】梱包とは ～サンリツの生い立ち～



始まりは、荷馬車1台、リヤカー1台

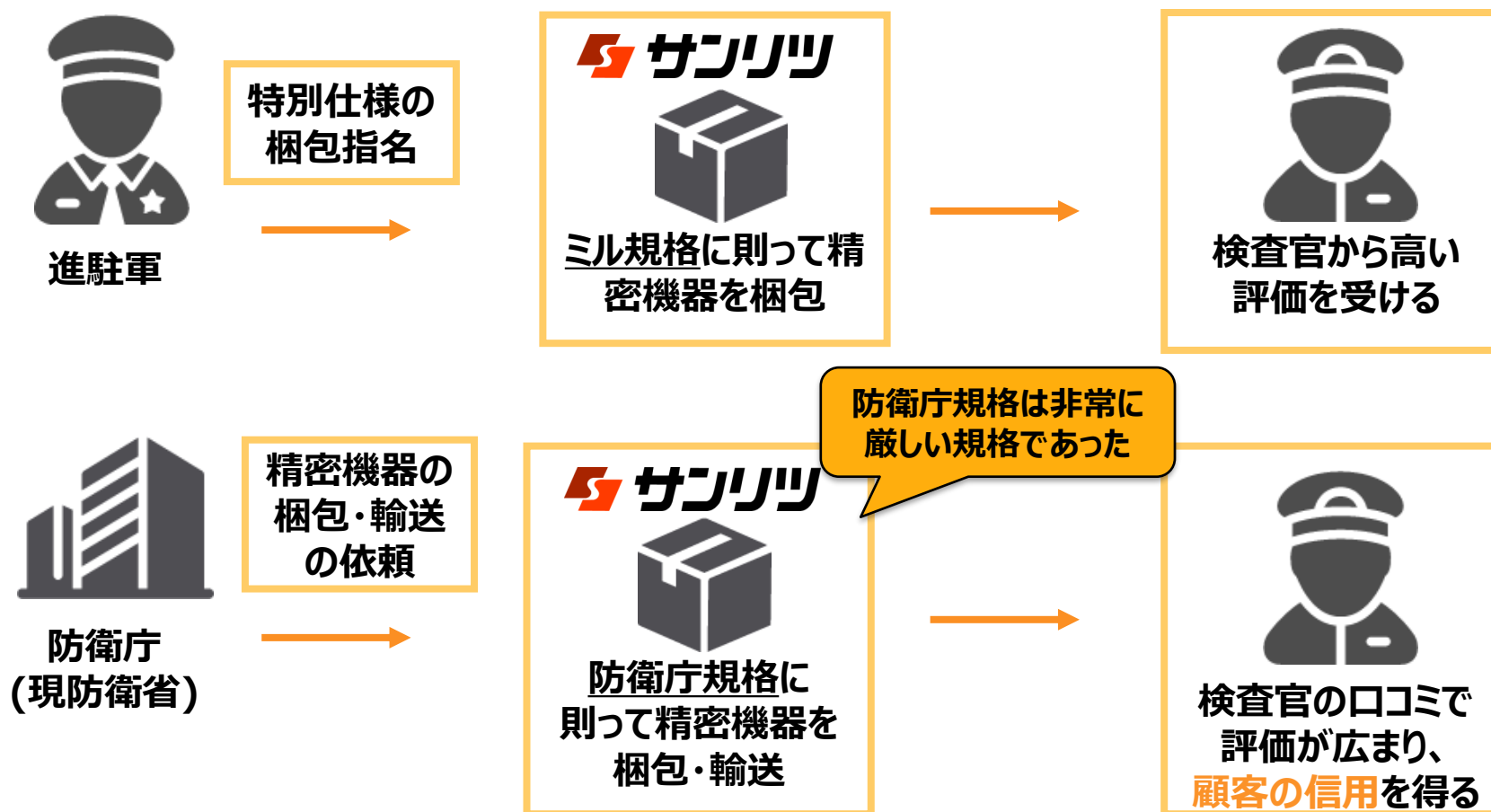


当時の事業環境

- ◆ 梱包は運送業サービスの中で「おまけ」のような立ち位置
- ◆ 運送業界には「日本通運」という大きな存在があった。

⇒ 大手では出来ない小廻りの利く仕事…それは**梱包**！

当社の財産である「信用」と「高い梱包技術」を築く



2代目社長が、**現JIS規格立案に参画**、規格を作り上げる

3. 主な沿革

年月	沿革
1948年3月	東京都港区芝浦に資本金180千円で(株)三立社を設立し、梱包、運送業を開始
1954年12月	本社を東京都港区に移転
1985年8月	(株)サンリツに商号変更
1987年9月	当社株式を「社団法人日本証券業協会東京地区協会」(現、(株)大阪証券取引)に店頭売買銘柄として登録、株式を公開
1994年5月	新本社ビル竣工(賃貸ビル事業開始)
1997年8月	Y-CC事業所(現、横浜事業所)を開設
1998年5月	成田事業所(現、成田事業所 野毛平倉庫)を開設
1999年3月	当社株式を東京証券取引所市場第二部に上場
2005年10月	成田第二事業所(現、成田事業所 十余三倉庫1期棟)を開設
2007年3月	当社株式を東京証券取引所市場第一部に指定
2010年3月	SANRITSU LOGISTICS AMERICA Inc.(現、連結子会社)を設立
2011年4月	八王子事業所を開設
2012年12月	京浜事業所を開設(旧事業所を全面建て替え)
2013年12月	山立国際貨運代理(上海)有限公司を設立
2022年4月	東京証券取引所の市場区分の見直しにより、東京証券取引所の市場第一部からスタンダード市場に移行
2023年7月	富士宮事業所(現、横浜事業所富士宮グループ)を開設
2025年3月	連結子会社である山立国際貨運代理(上海)有限公司の全株式を「上海宝京包装制品有限公司」へ譲渡
2026年7月	成田事業所 十余三倉庫2期棟を開設

4. ワールドスター賞受賞歴

World Star Awardsは、包装分野の国際組織である世界包装機構が主催するWorld Star Contestにおいて、高い包装技術や優秀なデザインのパッケージに対して贈られる賞です。

- 2024年 World Star賞
- 2023年 電機・機器包装部門賞
- 2023年 World Star賞
- 2022年 包装アイデア部門賞
- 2021年 World Star賞
- 2020年 工業包装部門賞
- 2019年 輸送包装部門賞
- 2018年 Asia Star賞
- 2018年 包装アイデア賞
- 2018年 World Star賞
- 2017年 テクニカル包装賞
- 2017年 World Star賞
- 2016年 経済産業省 環境局長賞

 **GOOD PACKAGING**


THE ASIAN PACKAGING FEDERATION



投資家の皆様に必要な情報は「個人投資家の皆様へ」のページに掲載されています。

今後も内容の充実を図るとともに、わかりやすく、最新の情報を発信して参りますので宜しくお願いいたします。

URL

<https://www.srt.co.jp/ir/investor/>

